



小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代
1385-18
編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子
連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziro Yacht Club

2025年11月号 VOL-329

2025.11.10 発行

今月の内容

	ページ
連絡事項	(編集委員) 1
2025年秋ハーバー整備作業	(編集委員) 2
第63回小網代カップレース	(小網代フリートキャプテン 藤村 宜武) 3
惜別 サンゴ 今北文夫氏へ	(NADJA 白崎 謙太郎) 4

今後のイベント予定

11月 KFR	：11月16日(日) 新Jコース (スタート予告信号10:25 タイムリミット15:00) 新コースの予定ですが、コースについては、レース委員会からの案内をご確認ください。
11月 総務委員会	：11月17日(月) 19:00～ハイブリッド(品川でリアル会議とZoom会議)で実
次回ハーバー整備(予定)	：11月22日(土)～23日(日) 2日間のみ
12月 ミニクリスマスパーティ	：12月6日(土) 13:00～15:00 クラブハウス2階サロン

連絡事項

1. ハーバー整備 作業状況と今後の予定

- #1: 10/25(土)～26(日) 2日目は雨予報により中止、初日のみ実施。
#2: 11/1(土)～3(月・祝) 3列目「NEPUTUNEから未央」まで終了。今回は、バウ側を主に行っています。

※#3予定：11/22(土)～23(日)の2日間

正式な日程は、ハーバー管理・整備委員会からの連絡をお待ちください。

※3列目及び以降の対象艇の方は、自艇にて2名程度の待機をお願いいたします。

※天候や作業状況により予定通りに進まないこともありますのでご承知ください。

2. 2025 KYC 秋のクルージングイベントは、ハーバー作業と重なり参加帆船も少なく、また天候悪化予報により中止となりました。

3. 第63回小網代カップヨットレースは、当日中止に決定。(藤村フリートキャプテン 3ページに中止の判断他報告) エントリーは、IRC、ORC、IRCDH(ダブルハンド) 合計17艇(内1艇は、白石康次郎氏の艇 伴走艇としてラストランの予定)でしたが大島回航における天候予測が悪いため残念ながら中止となりました。 ちなみに昨年も中止になっています。

4. ミニクリスマスパーティ 12月6日(土) 13時より 開催いたします。

参加費：2,000円/人。ご寄付やご自慢のお料理、お飲み物の差し入れ大歓迎です。どうぞご参加ください。

参加申込は、11月30日までに事務局 office@koaziroyc.jp 宛に 件名「ミニクリ」としてください。

艇でまとめていただき、艇名、代表者、人数できれば参加者名をお知らせください。

本年は、イベントの中止が続きました。皆様との交流の場としてお集まりいただければ、楽しみにしています。

2025年秋 ハーバー整備作業

実施日 : 10月25日(土)、26日(日) & 11月1日(土)、2日(日)、3日(月・祝)

作業経過 : 基本的にバウ側 1列目、2列目、3列目「NEPUTUNE から未央まで」終了。

10月の作業は、前日までの気温が一挙に下がり、翌日は雨模様の予報となつたため 25日のみ実施しました。



11月1日～3日の3連休は、前回の作業を継続しましたが、作業は諦めました。

前1、2列目までは「トーフ」（コンクリート共同アンカー）への直接係留と、「トーフ」同士を横に接続するチェーンへの係留が混在し、経年により「トーフ」も接続チェーンもヘドロの中に沈下しており、目視の障害となって作業効率が上がらず、3列目までで終了となりました。

追加作業として、11月後半の11/22(土)～23(日)に予定を組むこととなりました。



※漁協の皆様、及びハーバー管理・整備委員会と有志の皆様、連日の作業お疲れ様でした。



第63回小網代カップレース

— 新しい挑戦と安全を最優先にした中止判断 —

小網代フリートキャプテン 藤村 宜武

本年の小網代カップは、レース艇17艇とオープン参加の白石康次郎艇を加えた計18艇で開催される予定でした。

内訳はIRCクラス14艇、IRCダブルハンド3艇、ORCクラス9艇。

特にORCでは、国内初?の試みとしてフルクルーとダブルハンドの混走を実施予定で、各チームが新たな挑戦に意欲を見せていました。

また、今年からKTSレース全体の方針として、高年齢化とクルー不足への対応、安全で楽しいレース環境の実現を目的に、オートヘリムとパワーウインチの使用を全艇に認めることになっています。これは、時代に合わせた新しいレース運営の形でもあります。

しかし、レース前日には伊豆大島周辺で強風が予想され、竜王崎付近では大しけの恐れもありました。数日前から運営メンバー全員で複数の気象モデルをにらめっこし、深夜まで開催の可能性を最後まで模索しましたが、最終的にはレース当日朝に安全を最優先して中止を決定しました。

前日には複数の艇から棄権の連絡もあり、まさしく外洋艇の経験豊かな艇長による冷静な判断が光りました。

中止の連絡後、多くの参加者から「安全な判断でした」「次回のおでんを楽しみにしています」と温かい言葉をいただきました。レースそのものだけでなく、完走の達成感を語り合いながら楽しむおでんも、小網代カップならではの魅力の一つです。

来年こそは快晴の相模湾に多くの帆が並び、安全で楽しくレースを楽しめる天候になるよう願っています。

小網代カップHPのURLです。

来年は、是非レースにご参戦ください。

<https://koazirocup.wixsite.com/website>

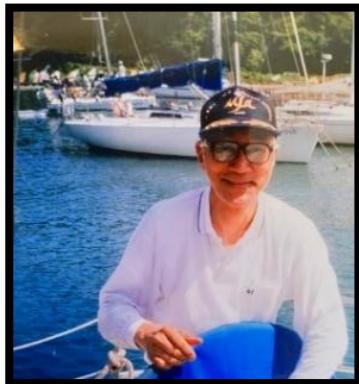
惜別 サンゴ 今北文夫氏へ

NADJA 白崎 謙太郎

今北文夫君が亡くなったそうだ。彼について真っ先に思い浮かぶのはヨットのことではない。クラシック音楽に精通していて大変なオーディオシステムを所有していることだ。2年くらいの英国滞在中に、「タンノイオートグラフ」というとてもないスピーカーを購入し、日本に運んだことだ。このスピーカーはクラシック音楽マニアにとっては垂涎の的である。英國イングランドの北部に自生する針葉樹の固い樹木で作ったこのスピーカーは、大音量で音楽を再生してもいわゆる「箱なり」もせず、最高のコンディションでクラシック音楽を再生できるのだ。今北君はこのどでかいスピーカーを日本に運んだ。眞のマニアとはそういうものだ。

どんなアンプで聞いていたのか、もはや彼に直接聞くことはできないが、おそらくは米国ウエスタンエレクトリック社の1930年代に制作された、これぞ最高という評価の高い300Bという伝説的な真空管を、左右2本ずつ使った真空管式のアンプに違いない。ご遺族に伺えばわかるだろうが、私はそうしない。そう想像するだけで私にとっては彼をしのんであの世に行けるという物だ。

今北君と初めて会ったのは60年ほど前、横浜にあった「岡本造船所」だ。当時はFRP（強化プラスチック）の船は無く、すべて木造だった。私の所有した最初のクルーザー「NADJA II世」も木造だった。当時私は実業のほうが好調で、やや経済的に余裕があったので、小型艇ながらヤンマーのディーゼルエンジンを搭載した。今北君は船外機を持っていたかどうか。しかし彼はその船をすぐに手放して「逆龍」という早稲田大学の教授の艇にクルーとして乗り込んだ。沖で出会うとバウにいた彼が手を高々と上げて挨拶してくれた。その時の彼は背が高く腕も長いなあと思ったものだ。君はクラシック音楽の作曲家では誰が好きだったのだい、今の私はギュスタブ・マーラーだよ。僕ももう後期高齢者、間もなくそちらに行くよ。スイカのチャージもしっかり貯めておくよ。三途の川で止められないようね。



ヨットに乗船中と小網代フリートをバックに。
小網代の皆様に感謝いたします。

(サンゴ 今北 信子様より 写真提供)